

令和2年度第1回子ども・子育て会議 会議録

令和2年度 第1回鹿屋市子ども・子育て会議 会議録（要点筆記）

開催日時	令和2年5月22日（金）	
開催方法	書面協議	
委員出欠	出席委員 26名	朝野委員、エルメス委員、鮫島委員、立切委員、鶴田委員、山口（翔）委員、山口（な）委員、米重委員、寶満委員、西之原委員、森委員、柳元委員、宮脇委員、前田委員、軀川委員、宮下委員、濱上委員、新川委員、有川委員、清水委員、柳田委員、馬場委員、川崎委員、渡邊委員、末吉委員、吉永委員

1 協議内容

令和3年度教育・保育施設の認定こども園への移行について

2 回答状況

- (1) 委員数 26人
- (2) 回答数 25人

3 審議結果

有効回答数 25人
「承認します。」と回答した委員数 25人
「承認しません。」と回答した委員数 0人

4 その他意見

（委員）

英検受験について、現在、中学校を準会場として、受験した中学生を対象に、検定料の補助を鹿屋市ではしてきていますが、一昨年度までは、「準2級以上」に挑戦する子どもたちも対象だったのが、昨年度は「3～5級」の生徒のみを対象とする形になっていました。今年度については、コロナの影響もあってのことかも知れませんが、第1回目は補助が出ないということを知りました。

年によって対応が異なることに困惑している保護者の声も耳にします。（学校から通知をもらうのが、申し込み期限ギリギリのため）年度の対応が決まって分かり次第、何らかの方法で、保護者の方々が知ることなど出来ないでしょうか？

（委員）

鹿屋市の取り組みにつきましては、子育て支援課の皆様をはじめ頑張っていることが前回とてもよくわかりました。ありがとうございました。出産から育児、幼稚園、保育園を中心にあらゆる支援が行われていることは市民としてありがたいことです。鹿児島県では、小学校、中学校（高校）にいたるまで会議ではふれられ活発な意見が出ていました。ぜひ鹿屋市も、小学中学まで考えていただいた子育て会議にしていきたいです。

またもっと転勤族の妊婦さん悩みを抱えた若いお母さん達をメンタル面で支えられる場所（明るくコーヒーを飲みながら子供をあやしながら話せる場）を作りたいなと思います。（希望）そしてこれだけいろいろな支援をされているのでもっと他県にアピールできる広報活動も願っています。

（委員）

今期も子ども・子育て会議の市民委員に選出していただきありがとうございました。よろしく願い致します。前回委員として議会に出席しましたが、私たちが市民委員が議会だけでなく、もっと足を使い鹿屋市と保護者の方々とのパイプ役になれないものかと思えます。同じ子育て世代だからこそ、共感できたり、話しやすいこともあると思います。例えば、県民健康プラザに新しくできる施設の利用者の声をきくにしても、市民委員が足を使いアンケートをとりに行くなど、会議だけでなく協力できる場があればいいのにと思えます。

（委員）

産後の保健センターでの相談・検診に、母親の急病時や虐待をしまいそうな時どこに連絡・相談すべきか、ファミリーサポートや病児保育についてよりわかりやすい説明があればと思います。

また、0歳児の託児のあるお母さん方の交流会、講習会のようなものがあれば、『孤育て』に陥ってしまうお母さんが減らせるのでは…と考えています。

知り合いの母子家庭のお母さんは、自身も病気を抱えて育児をしていましたが、認可保育園の入園方法がわからず保育料が減免されることも知りませんでした。

市には様々な仕組みがあるので、それらが周知され、まず母親が安心して子育てできるような援助にたどりつける行政を望みます。

（委員）

初めて委員に入らせて頂きましたが、知らない制度が多く恥ずかしい思いです。市は多くの広報活動をしている事を知り、私自身も応援していきたいと考えます。

（委員）

外国にルーツを持つ子ども、その過程に対しての行政としてのとり組みが資料等にはなかったのも、もし実践しているのであれば載せても良いとおもいました。

本市では、第1次産業の担い手として外国から来た技能実習生が日本人と結婚して出産するケースが多いと思いますが、今後は実習生が家族を連れて移住することも増えてくると予想できます。早めに対応できるものは考えていても良いかな…と思いました。

（委員）

3～4月の休校期間に鹿児島県内や鹿屋市で児童虐待の件数が増加したということはないのでしょうか。

コロナウイルスの感染については、第2波が来ると報道されています。その時まで感染防止対策を推進していただきたいと思えます。

（委員）

要対協の運営及び本会議もよく回っていると思えます。医療や教育とのコラボレーション、連携、協働を今後も進めていっていただきたいと思えます。

(委員)

今回の新型コロナウイルスの感染拡大を通して、児童福祉のあり方についてもいろいろ感じる課題も多い。特異な状況とはいえ、日頃から行政と関係機関、施設や学校、市民の保護者、地域等とのスピーディーな連携や対応が図られるようにしてほしい。

(委員)

子ども達が子どもらしく暮らせるように、より長い児童福祉行政を宜しく願います。

(委員)

ご承知の通り、児童クラブの利用児童数は年々増加。第2期の市事業計画では、令和6年度で34ヶ所2,197人を見込んでいるが、まだまだ不足していると感じる。6年度の数字を単純計算しても、1支援単位で約65人であり、国の基準40人に比べて格差が大きい。放課後児童健全育成事業の量と質的拡充をさらに推進していきたい。